

「挨拶できる人が欲しい」から始まった、私の職業奉仕物語

「それぞれの職業奉仕」というテーマで原稿執筆の機会をいただき、心より感謝申し上げます。改めて自分の歩みを振り返ると、ロータリー入会の動機がこの「職業奉仕」という言葉に深く結びついていることに気づかされました。

「天職」としての解釈

職業奉仕は英語で「Vocational Service」と綴ります。「Vocational」の語源には「天職（天から授かった仕事）」という意味合いが含まれます。その歴史的・宗教的な背景を紐解くと長くなりますが、私はこれをシンプルに「自分の得意なことや、情熱を傾けられる趣味から始まった仕事」と解釈して活動しています。

Uターンと「東根インターネットクラブ」の足跡

私が40歳で海外から東根市にUターンした際、真っ先に感じたのは「挨拶を交わせる知り合いを増やしたい」という切実な思いでした。そのために始めたのが、本業とは別に、自分の特技を活かした「パソコン勉強会」というボランティア活動です。当時はインターネットの黎明期。ネットへの接続方法すら手探りの時代に、欠かさず毎月開催していた勉強会は次第に評判を呼び、30名もの仲間が集まる「東根インターネットクラブ」へと発展しました。活動は技術習得に留まらず、メンバーの関心は「まちづくり」へと広がっていきました。当時注目され始めたNPOについても共に学び、研修を重ねた結果、私たちのクラブが起爆剤となって東根市内に3つのNPO法人が誕生することとなったのです。

ボランティアから「職業奉仕」の実践へ

現在、私が主に携わっているのは、設立22年目を迎えた子育て支援のNPO法人です。ゼロからスタートした組織も、現在は職員25名を抱える規模となりました。山形県内初の屋内子どもの遊び場や屋外遊び場の運営を東根市から受託するなど、地域のインフラを支える役割を担っています。

NPOと聞くと「無償のボランティア」を想起されがちですが、組織として持続するためには、職員が家族を養える対価を得て、地域から信頼されるプロフェッショナルとして育つことが不可欠です。そこで私は、職員の「人材育成」の柱として、折に触れてロータリーの「職業奉仕」の精神を説いています。

単なる奉仕活動に留まるのではなく、「高潔な職業人として自らの職能を磨き、その仕事を通じて地域に貢献すること」。これこそが職員の誇りとなり、結果として真の「社会奉仕」に繋がると信じているからです。

最後に

「本業とは違った世界の知り合いを増やしたい」という下心(?)から始まった私の活動ですが、おかげさまで今では市内のどこを歩いても誰かに声をかけられるようになりました。

ただ、困ったこともあります。悪いことは一切できませんし、たまに一人で静かに牛丼を食べていたい時でも「副理事長、お疲れ様です！」と爽やかに挨拶されてしまいます。 どうやら、地域に「奉仕」してきたつもりが、一番「監視（サービス）」されているのは、私自身だったようです。